

★今週の聖句

そこでも、わたしは宣教する。そのためにわたしは出て来たのである

マルコによる福音書 1章 38節

★ねらい

- ・自分たちにとって《大切なもの》を独占したくなる弱さと、そのことを承知で宣教に励まれるイエスの姿。
- ・病人や悪霊に取り憑かれている人を癒してもらいたくてイエスのもとに連れて来た人がいる。聖書では詳しく記されていないが、そこには一緒に行動してくれる仲間がいることを考えてもらいたい。

★説教作成のヒント

- ・イエスは人々の求めに対し見事なまでに対応しているが、35節にあるように一人で祈りの時間を持っている。イエスにとって祈りの時間は父なる神との対話の時であり、本当の意味での安息の時である。自分の働き《癒しの業》は自分で手にしたものでなく、父なる神から与えられていることを忘れないからこそ、祈りの時間を大切にされている。自分たちが持っている《賜物》は一体誰によって与えられているかに気付いて欲しい。

★豆知識

- ・29節でシモン、アンデレ、ヤコブ、ヨハネが列挙されるのは、35節以下の宣教旅行への出発を意識している。
- ・聖書で「熱を出していた」と言った表現は患者の危険な容体を示している。
- ・この箇所ではイエスに癒し慰めを求める群衆は、ユダヤ教の教えに従ったままの状態である。日没と共に安息が終わるからである。
- ・悪霊を黙らせる理由として、彼らはイエスの本質を知るが、その認識は彼らの力の誇示であり、悪霊の力でイエスの本質を人々が理解するのはイエスにとって不本意である。

★説教

イエス様は安息日を神殿で過ごしてからシモンとアンデレの家に向かいます。ヤコブとヨハネも一緒に行きました。

イエス様にアンデレのしゅうとめさんが熱を出していたのを伝えると、イエス様が癒してくれたのです。そして日が沈むと安息日の時間が終わったので、多くの人たちがイエス様のところに病気の友達を連れて集まってきました。安息日の時間に働いてはいけないというキマリを守ろうとして、日が没むまで待っていたのです。

みんなは、病気になってキツくて「しんどいなあ」と思った時に、すぐにお医者さんに診てほしいと思いませんか？(数秒、間をとる)ところが聖書に出てくるイエス様たちの時代には《安息日》に働いてはいけない！とキマリがあったので病気に罹った人をイエス様の所に連れて行くのも日が沈む時間になったのです。そうすると、イエス様が多くの人を癒したのは日が沈んでからなので、夜遅くまで多くの人の病気を癒したことになります。昼間には神殿で神様についての教えを伝えて、夕方からは病気の人たちのために癒しをしてくださる。ずっと働いているのですから、とっても疲れてしまうと思うんです。でも、イエス様は多くの人が病気を診て

もらえないことを知っていたので、自分の体調がしんどくても多くの人を癒されるのです。じゃあ、イエス様が「疲れてしんどいなあ」と思うくらいの働きをした時に、御自身を癒す為にどんなことをするか知っていますか？(数秒あく) 静かなところで神様とお話をする時間、お祈りをするんですね。イエス様が多くの人たちを癒す力は、神様から与えられたものです。その神様に感謝を捧げて、「これからどうしたらいいですか」とお話しするんです。その時間がイエス様を元気にしてくれる時間です。イエス様は一人でお祈りをしていたんですが、シモンたちから「みんなが探してる」と言われます。みんなはイエス様がずっと傍にいたいことを希望しますが、イエス様の働きは神様のことを多くの人に伝えることなので、他のところにも神様のことを伝えると言います。

わたし達は神様からいただく恵みを自分だけのものにしたいと思うこともあります。でも、イエス様が伝える神様の恵みは、多くの人に分け与えるものです。他の人に分けても溢れてくるほどの恵みです。病気の人をイエス様のところに連れきた友達みたいになれるよう、イエス様の教えてくださることを守っていきましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか” (日キ版) より

4 5 番

改訂 1 2 2 番

話してみよう

- ・ 病気を癒してもらったためにイエス様のところへ日没後に集った多くの人々、私たちがイエス様の立場であればどう対処したでしょうか？その対処の方法を考えた時の気持ちを分かち合いましょう。
- ・ イエス様は人里離れた場所で祈りの時間を持ちました。私たちがお祈りをする時間、場所、場合を考えてみましょう。神様へのお祈りの時間、内容は「お祈り」なのか「感謝」なのか「お願い」なのかを振り返ってみるのも良いでしょう。

やってみよう

宣教すごろくを作ろう

用意するもの・・・大きな紙、サインペン等、画用紙、サイコロ

- ・ 大きな紙に自分たちが行きたい国を書いてすごろくを作る。
- ・ 画用紙で一人ひとりののコマを作る。
- ・ 完成したらサイコロを振って世界宣教旅行にスタートしよう。

★今週の聖句

「子よ、あなたの罪は赦される」と言われた。

マルコによる福音書 2章5節

★ねらい

- ・ 困っている人を見かねた人々が、協力して一緒に困難に立ち向かう。そこにキリストの愛を示す行いがある。
- ・ 一人の人を助けたいという周囲の人々の信仰によって、罪の赦しがなされている。他者のために仕えることを考える。

★説教作成のヒント

- ・ 一人で困難な状況に置かれていても、心にとめてくれる仲間によってキリストの恵みに与ることができる。
- ・ 救いを求める者の行動は、時として周囲を驚かせる。それ以上に、イエスのことを快く思わない者（律法学者）にとっては、救いを求める人を見ていない。

★豆知識

- ・ 当時の家屋は横梁の上に角材を並べ、その上に木の枝や柴を編み、粘土で固めた平家であろう。簡単に壊すことができるし、修復もしやすいので、そこまで驚くことではない。
- ・ 病気はその人の罪の結果という理不尽な考えが前提とされる。その赦しは神のみに可能である。イエスの赦しの宣言は病人を二重に苦しめる病気と罪の関連から彼を解放する。

★説教

みんなは友達が病気でキツそうにしていたらどうしますか？もし、外で一緒に遊んでいた時にお腹が痛くなったお友達がいたらどうしますか？今日の聖書のお話は、自分自身の大変なことじゃなくて、お友達が困っている時に行動した人たちと、その人たちにイエス様がどうしたかというお話です。

イエス様はお弟子さんのシモンとアンデレの家を出発して、周りの街に出かけて行きました。他の街でも神様のことを正しく伝えようとし、病気の人を癒していました。そのイエス様がカファルナウムという街にもう一回来たから、さぁ大変です。何が大変かというと、前回に病気の人や悪霊に取り憑かれた人を癒してもらったことを知っていたからです。前回癒してもらえなかった人たちが、今度こそ診てもらいたいと思って押し付けてきたのです。イエス様は大勢の人が押し付けてきても慌てることなく、神様の教えを人々にお話ししました。イエス様は病気の人を癒したり、悪霊に取り憑かれた人から悪霊を追い出したりできるのですが、まずは一番大切な神様のことを押し寄せた人たちにお話ししたのです。

わたし達は、病気の人がいるのだから先に診て欲しいと思うかもしれませんが、そうしてもらいたいと願うことでしょう。でもイエス様は神様のことをしっかりと知ってもらいたかったので、人々が集まった時にお話を先にしていたのです。そんなとき、4人の男が中風（体が麻痺して動かない人と説明したほうがわかりやすい）の人を運んできました。きっとイエス様のこ

とを聞きつけていたんでしょ。イエス様なら癒してくださるに違いないと思って、寝床を担いでイエスさまのいる家まで来ました。

でも大勢の人が入り口にいたので、寝床を担いで中に入れません。ここで4人の男たちは諦めることなく、屋根に登って天井から病気の人をつり降ろしたのです。どうにかして病人をイエス様に診てもらいたい、癒してもらいたいと思っていたのです。

イエス様は4人の男たちの信仰（イエス様であればきっと癒してくださる、と信じる心）によって病気の人に「あなたの罪は赦される」と言われたのです。イエス様の時代は病気はその人の罪の結果と考えられていました。イエス様が「赦される」と言われた時、病気の原因とされる罪は4人の男の信仰で赦されたのです。病気の原因の罪が赦されたのですから、病気にはならないということです。だから病気だった人は起き上がって床を担いで出ていくことができたのです。イエス様を信じるから、困っている人をイエス様に逢わせたいと思っての行動です。私達もイエス様のことをよく知らないお友達に伝えられるように、イエス様のことを覚えて過ごしましょう。

★分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

- 61番
- 改訂130番

話してみよう

- ・ 他者のために仕えようとしながらも困難な壁にぶつかった時、私たちはどのような行動を取るでしょうか。4人の男の気持ちを考えつつ、自分たちがどう対応するか分かち合いましょう。
- ・ 他の人が自分に出来ないことを成し遂げることができた時、嫉妬することがないか考えてみましょう（6～7節から）。ここでは中風の人を見ることなく自分たちの思いをぶつけています。律法学者の気持ちを踏まえて、「罪」とはなんであるかを考えてみましょう。

やってみよう

神様の子どもとして出来ることを考えよう

用意するもの・・・大きな十字架を書いた紙、付箋

- ・ 付箋に周囲の人が困っているとき、自分はどんなことが出来るか、考えて書こう。
- ・ 書いたものを十字架に貼ろう。
- ・ お互いに自分の出来ることを発表しよう。

★今週の聖句

「これはわたしの愛する子。これに聞け」

マルコによる福音書 9章7節

★ねらい

- ・ イエスによる約束は旧約に記される栄光の主であると同時に、受難の主でもあることを覚える。
- ・ 自分たちの理想形だけを追い求めない。本質は一体何を示そうとしているかに目を向ける。

★説教作成のヒント

- ・ 目先の喜びに気持ちを高揚させるのではなく、何のために自分たちの目の前で喜びが顕されたのかを考える
- ・ モーセ・エリヤ・主の変容は旧約の成就と同時に、受難に対しての話し合いもなされている。つまり、十字架によって救いが成就する事が確かめられている。それは聖句によって語られる。

★豆知識

- ・ この箇所はペトロの告白と最初の受難予告から六日の後の出来事である。
- ・ 聖書を読んだことのある人にはイエスが神の子であることを知らされている（洗礼の時に告知）が、ここにきて受難予告の直後に再び知らされている。
- ・ そこに礼拝すべき方が留まってくださる場所として仮小屋が用意される。

★説教

皆さんは自分が予想した通りの出来事があったなら、どう感じるでしょうか。悪い予想ではなくて、良いこと、嬉しい事、楽しいことが予想通りだったら、飛び上がるほど嬉しくて楽しいのではないのでしょうか。自分の思った通りのことが起きると、そのことがずっと続いて欲しいなあと考えたりもします。でも、喜ぶ出来事が起こる前に、「悲しく、辛く、寂しい出来事があるよ」と聞いていたら、素直に喜べるでしょうか。やっぱり楽しい出来事が目の前で起きたなら、想像だけの悲しく辛いことは忘れてしまうかもしれませんね。

今日の聖書では、イエス様の衣服が白く輝いてこの世のものとは思えない白さだったと書いています。この書き方はユダヤ人にとって天使の衣を想像させる書き方です。「エリヤがモーセと共に現れて、イエスと語り合っていた」のですが、モーセとエリヤは旧約聖書に出てくる大人物です。ユダヤ教ではこの二人が現れる時、終末・世の終わりの日に再び来ることを信じていたので、イエス様と語る二人の登場は、神の国の実現のしるしなのです。お弟子さんは、イエス様がモーセとエリヤの二人と話しているのを見て、世の終わりが現実なんだと思ったのです。しかもイエス様の姿は真っ白く輝いて、この世の者ではない存在にも見えませんでした。思わず嬉しくなって「仮小屋」を建てたいと言い出しました。イエス様とモーセとエリヤの三人をいつでも礼拝できるように、いつでも拝見することができるようにとの思いを持ったのでしょうか。私達も同じようなことを考えませんか？素晴らしいものを見ることができたら、いつでも見られる様にしたいと考えて、消えないよう

にと考えませんか？今の時代なら、携帯電話やデジタルカメラに記録して、何度でも見たいと思うかもしれませんね。でも、「これはわたしの愛する子。これに聞け。」と神様の声がしました。私たちの考えで行動するのではなく、イエス様の言葉に従いなさいと教えられます。イエス様は山を降りてから十字架に架けられる道を歩みます。避けては通れない道です。イエス様が救い主となられるために必要な道なのです。イエス様の救いは輝かしい場面だけではなく、苦しくて辛い場面も含まれます。神様からの声は、「目の前の楽しいこと以外もあるけれども、どんな時でもイエス様と一緒に歩きなさい」といわれています。どんな時もイエス様を信じて歩めるようにお祈りしましょう。

★分級への展開

さんびしよう

* 讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

- 36番
- 改訂120番

話してみよう

- ・大切なものを取っておきたい気持ちを持つことは良いのでしょうか？それとも持たないほうが良いのでしょうか？日常の中で時間の経過とともに変化するものもあるので、考えてみましょう。
- ・私たちはイエス様の救いを覚える時、十字架の上で死なれたことを思い出しているのでしょうか。今日の弟子たちのように、良い部分だけに目がいついていないか考えて分かち合しましょう。

やってみよう

文字合わせゲームを作ろう。

用意するもの・・・紙コップ9個、紙コップの飲み口に合わせた丸い紙9枚、サインペン等

- ・用意した丸い紙一枚一枚に(わ)(た)(し)(の)(あ)(い)(す)(る)(こ)と書く。
- ・飲み口に合わせてはめる。
- ・文字を見えないように紙コップを置き、「わたしのあいするこ」となるように並べる。

★今週の聖句

イエスは四十日間そこにとどまり、サタンから誘惑を受けられた

マルコによる福音書 1章13節

★ねらい

- ・ 誘惑を受け打ち勝ったことで、イエスが人間を誘惑するすべてのものに対抗できることを知る。
- ・ 霊に導かれ天使たちが仕えることで、イエス一人で立つのではなく、上からの力が支えていることを知る。

★説教作成のヒント

- ・ 受難節では今まで以上にイエスの十字架への道を覚える。避けたい状況がなんども訪れるが、救いの成就のためにその道を歩まれる。十字架を避けたくなる状況と、荒れ野での誘惑が重なって見える。
- ・ 荒れ野は私たちの一般社会そのものと考えることができる。誘惑は身近な場所に存在する。

★豆知識

- ・ 12節「それから」という句で受洗と誘惑が密接に結び付けられる。受洗したキリスト者はしばしばイエスと同様に誘惑にさらされる。
- ・ 13節「四十日間」はモーセ（出 34:28）やエリヤ（王上 19:8）の経験を連想させる。
- ・ 「サタン」はヘブライ語読みの「サターン」、「告発人」「敵」の意味を持つ。

★説教

この日曜日から受難節・四旬節・レントと呼ばれる季節になります。特にこの期間にはイエス・キリストの十字架の意味を中心にして礼拝を守ります。先週の水曜日、「灰の水曜日」と呼ばれる日から始まっていますが、皆さんは「灰の水曜日」を耳にしたことがありますか？灰というのは、一つは人間が最後は灰（死）になること、その懺悔や悲しみの象徴（シンボル）として灰が出てきます。皆さんが読んでいる聖書の新約聖書では「罪の告白」（マタイ 11:21）の意味も持ちます。さて、先週の水曜日から日曜日を除いて40日間、四旬節を過ごしますが、礼拝の中でもいつもと少し違うことがあります。「ハレルヤ」を使わないようにしたり、教会によっては始まりの鐘を鳴らさないこともあります。また復活祭（イースター）に向けての洗礼の準備をする季節とも言われます。イエス様が私たちの罪の赦しのために十字架の上で死なれたことをしっかり学ぶためです。

（この中で洗礼を受けている人はいますか？）洗礼を受けたらクリスチャンとしての生活をしっかりしようと考えたりします。でも、なかなか思うようにならないものです。皆さんだけでなく大人の人もですが、イエス様の教えに従った生活をしようと思心を決めていても、いろいろな誘惑に流されてしまうんです。みんなが、おもちゃで遊んでいるときに大好きなテレビ番組

が始まったら「片付けるのは後からにしよう」と思ってほったらかしにしたことはありませんか。片付ける約束をしても、テレビがあるからと言って後回しにしたことはないですか。実はそれも、誘惑されたことになるんです。自分のすぐ近くに誘惑することが多くあります。大人の人も「この服いいなあ」「ご馳走を食べたいなあ」という誘惑を受けてしまいます。誘惑を受けないようにすることは大変なことです。でも、イエス様は荒野で誘惑を受けられているのです。ワザワザ受けるなんて不思議ですね。私たちは誘惑されたことによって、誘惑に勝てない存在です。でもイエス様は「霊」に導かれて誘惑にあいました。これは、イエス様が荒野の誘惑に負けることなく、父なる神様を信じる姿です。私たちを誘惑するすべてのものに勝つことができるイエス様の姿です。そして、私たちがあう誘惑の全てをご存知になるのです。

皆さんがあう誘惑の全てをイエス様は知っておられます。そして、その誘惑に打ち勝つのがイエス様です。イエス様は十字架に向かって歩まれますが、「怖いから逃げ出そう」「文句を言われるのは嫌だからやめよう」という誘惑に打ち勝つのです。それは、荒野での時間を過ごし、私たちの救いのために必要なことだと知っているからです。皆さんもこの季節、イエス様の「ゆるし」を考えてみましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

5 1 番

改訂 5 1 番

話してみよう

- ・ 「霊」によって導かれるが、聖書に出てくる「霊」でイエスの出来事に関係している箇所を、知っているだけ話してみましよう。そして、その箇所をみんなで読んでみて、霊の働きを分かち合いましよう。
- ・ 自分たちが 40 日間の誘惑に遭ったとしたら、それはどのような誘惑か話し合ってみましよう。（出てくる誘惑が、今の自分にとって関心のある内容となる。）

やってみよう

サタンの誘惑から打ち勝つ方法を考えよう。

- ・ どんな時にサタンからの誘惑を感じるか、発表する。
- ・ 誘惑に負けないようにどうしたらよいか考えよう。